

国立大学病院初のJMIPに認証

外国人患者の受け入れに高い評価

阪大病院 NEWS

No. 63 号

OSAKA UNIVERSITY
HOSPITAL

2016(平成28)年7月25日発行

発行／大阪大学医学部附属病院広報委員会(総務課)

住所／〒565-0871大阪府吹田市山田丘2-15

TEL／06-6879-5021

<http://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp>

禁転載(この紙面は再生紙を使っています)

患者申出療養制度の 開始について

本年4月から、困難な病気と闘う患者さんの思いに応えるために「患者申出療養制度」がスタートしました。

本制度は、未承認薬などを保険外併用療養として迅速に使用したいという思いに応えるため、患者さんからの申し出を起点とする新たな仕組みとして創設されたもので、治験や先進医療でも実施していないものが対象になります。

本院は、医療法上の臨床研究中核病院としての中心的な役割が求められており、外来棟3階に「治験コーナー・臨床研究相談窓口」を開設しております。

熊本地震被災地へのDMAT派遣



エレベーターが使えなかったため、階段を使用して患者さんを搬送。

本院の災害派遣医療チーム(阪大DMAT)は4月16日の熊本地震本震を受けて、同日早朝に病院を出発し、2台のワゴン車に医師、看護師、ロジスティック(業務調整員)が1名ずつ分乗して現地入りしました。ワゴン車の機動性を活かして、約1日半の間にさまざまな場所へ行き、活動を行いました。被災地内の医療ニーズ調査により、医療支援が行われていない介護老人保健施設を発見し、避難していた高齢者で転送が必要な6名を病院へ搬送しました。病院支援としては熊本医療センターで準緊急治療を要する黄色エリアのトリアージを行いました。今回の経験から、DMATが効率的に活動するには、被災地内での受け入れ体制の整備が重要であることを実感しました。

本院は今年3月、国立大学病院で初めてJMIP(外国人患者受け入れ医療機関認証制度)に認証されました。JMIPは外国人患者の受け入れ体制を第三者的に評価する制度で、多言語による「受け入れ対応や、異文化・宗教にも配慮した「患者サービス」「医療提供」などが格段に充実しているとの高評価を受けました。



国際医療センターのメンバー

国際医療センター 一貫したサポート提供

本院は、外国人患者の受け入れにおいて多くの実績を積み重ねてきましたが、従来は各診療科が個別に外国人患者への対応を行っていました。そのなかで、2013年に設立されたのが「国際医療センター」です。設立から現在まで、病院全体の受け入れ窓口となり、人材配置やハード面の整備を含めた受け入れ体制の充実に尽力してきました。

国際医療センターは、医療の国際化に対応し、海外からの患者さんが安心して診療を受けられるような一貫したサポートの提供を目標にしています。主な業務は、外国人患者の受け入れ、医療従事者の研修、日本の優れた医薬品・医療機器などの海外展開、医療のグローバル化に伴う人材教育・研究などです。

外国人患者が先進医療の受診や臨床研究への参加を希望する場合、英語や母国語による医師との十分なコミュニケーションに対応しています。

ーションが特に重要となるため、院内で連携してスムーズに外国人患者を診療できる体制が求められます。また、外来受付カウンターでの対応や医療通訳・翻訳の手続きなどに関するマニュアルも必要となります。国際医療センターは、外国人診療に関するさまざまな業務やコーディネーターについて診療科をバックアップするとともに、外国人を対象とした医療費の設定、医療通訳の手配体制の整備と料金設定、診療案内などの各種文書や院内掲示の多言語化などを推進してきました。

現在、全国の15医療機関がJMIPに認証されていますが、なかでも本院の大きな特徴は、外国人患者受け入れに関する人材育成を重視していることです。たとえば医療通訳に関しては、大阪大学医学系研究科に新設された国際・未来医療学講座において、「大阪大学エクステンションプログラム」として、社会人対象の医療通訳養成コースを2014年に開講し、外国人患者受け入れに不可欠な医療通訳の養成と啓発に取り組んでいます。また外国人患者の場合、自国へ帰国後の継続的ケアを考慮する必要があるため、多様な国の医療事情・システムに通じた医療コーディネーターの育成にも力を注いでいます。

さらに、外国人患者受け入れのための環境整備も進んでおり、問診票や同意書、診療案内などの文書は現在、9言語に対応しています。



病院機能評価の認定を受け ました

日本医療のグローバル化に貢献したい
今後、ラグビーワールドカップ2019や2020年東京オリンピックなどの開催を控え、外国人が日本を訪れる機会がさらに増加します。そのような状況で国際医療センターは、外国人患者のスムーズな受け入れシステムや環境の整備をさらに進め、JMIP認証をめざす他の医療機関

にノウハウを公開するなどして国際医療のネットワークを拡げ、日本の医療のグローバル化に貢献していきたいと考えています。

「私たちが目標としているのは、医療における国や組織を超えた『共生』です。初めての試みであり、新規システムやルールを作っていく苦労はありますが、今後の日本の立場の向上、ひいては世界への貢献として、試行錯誤しながら外国人患者受け入れの「阪大病院モデル」を作り上げていきたい」と、中田研センター長は志を熱く語り、「JMIP認証医療機関として、在留外国人や日本の医療を求めて来日される外国人患者が、言葉や文化の障壁を感じず、日本の標準医療や先進医療を安心して受けていただけるよう今後も邁進いたします。安心して受診なさってください」と話しています。

おります。前回の認定が2011年から2016年まででしたので、昨年、更新のために審査を受けました。病院機能評価では、4つの領域で評価されます。第1領域「患者中心の医療の推進」では、病院の理念や大きな方針、医療安全、感染制御などの取り組みが評価されます。第2領域「良質な医療の実践」では、外来、入院の診療体制、診療プロセスについて、

第3領域「良質な医療の実践」では、中央診療部門を中心とする運用体制について評価されます。第4領域「理念達成に向けた組織運営」では、病院の経営管理面が評価されます。

本院では、受審に向けて1年前から準備してまいりました。血液・腫瘍内科の柴山浩彦講師がリーダーを務めるタスクフォースコアメンバーが中心となり、各部署から選出されたタスクフォースメンバーが対策の準備を行いました。運用マニュアルを全て見直し、内容が適切に更新されているか、不適切な手順がないかを確認しました。さまざまな観点での定量的な評価事項についても調査し自己評価表を作成しました。また、各病棟において、医師、看護師、薬剤師、理学療法士、栄養士、ソーシャルワーカー、緩和チームなどによるチーム医療の診療プロセスを確認しました。2015年11月18日と19日の2日間、サバイバーの訪

● 神経科・精神科長
いけだ まなぶ
池田 学



5月1日から神経科・精神科診療科長を拝命いたしました。ストレス社会、超高齢社会の只中で、発達障害、摂食障害、統合失調症、うつ病、睡眠障害、認知症など多様な疾患に悩まれている患者さんに対して、それぞれの専門医が対応させていただきます。また、本院の他の診療科で治療中に精神的なサポートが必要になられた患者さんに対しても、主科と協働で迅速に対応させていただきます。地域のかかりつけ医の先生方とも緊密に連携して、地域医療に貢献したいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。(平成28年5月1日就任)

問を受けました。第1領域、第4領域は、項目に沿ったヒアリングが中心となり、マニュアル、規程、議事録などの書類が確認されました。第2領域、第3領域は、病棟、中央診療部門等の現地視察と診療プロセスに沿ったヒアリングが行われました。

審査の結果は、S・秀でている、A・適切に行われている、B・一定の水準に達している、C・一定の水準に達していないとは言えない、の4つの区分で評価されます。第1領域はS判定が1、A判定が20、第2領域はA判定が28、B判定が5、第3領域ではS判定が4、A判定が7、B判定が3、第4領域では、A判定が17、B判定が4でした。全体でS判定が5、A判定が72、B判定が12であり、C判定の項目はなく、かなりの高成績でした。

第三者による審査を受けることで、本院の機能が適切に運用されていることが確認され、自信を持つことができました。しかし、いくつかの項目について改善の余地が残されていることも分かりましたので、これらに取り組み、より高いレベルの病院体制の構築を目指していきます。



PHOTO

TOPICS

セタコンサート



阪大病院を見学してみませんか

本院では、下記のとおり見学会を開催いたします。普段は見ることのできない場所の見学や最先端の医療に触れるチャンスですので、お気軽にご参加くださるようご案内いたします。

●実施日時 9月28日(水)14時～16時30分

●申込締切 9月7日(水)必着

●対象者 一般市民(成人、個人)

●募集人員 15人

必要事項(①氏名 ②性別 ③年齢 ④郵便番号

⑤住所 ⑥電話番号 ⑦あなたが阪大病院に抱く

イメージ ⑧見学を希望する理由)を明記のうえ、

はがき、FAXまたは電子メールによりお申し込みく

ださい。必要事項に不備がありますと、こちらから連

絡できないことがありますのでご注意ください。

(※いただいた個人情報は本見学会以外の目的には使用いたしません)

●送付先(問い合わせ先)

〒565-0871 吹田市山田丘2-15

大阪大学医学部附属病院総務課広報評価係

TEL:06-6879-5020、5021

FAX:06-6879-5019

(※非通知設定のTEL/FAXからは頭に186を

つけておかけください)

e-mail: ibyou-soumu-kouhyo@office.osaka-u.ac.jp

●見学場所 ドクターヘリ、臨床検査部など
(※都合により見学場所が変更になる場合があります)

●決定通知 応募者多数の場合は抽選により決定し、参加の可否をはがきでお知らせします。

●注意事項 見学では、かなりの距離を歩きます。階段の昇り降り等もありますので、歩きやすい靴でお越し下さい。

IAEA(国際原子力機関)と
アジア初の教育連携協定を締結

科と連名で締結しました。

IAEAでは、医学分野での原子力の平和利用を推進しており、開発途上国における核医学の振興を図るために、核医学専門家のための教育研究の基盤整備を行っています。

本院では、核医学の教育プログラムを設定し、これまでアジアを中心として、昨年度は20名を超える医師、看護師、放射線技師、薬剤師を含む医療者を受け入れ、核医学専門家養成のための教育を独自に実施しているところ。

このような実績を踏まえて、今回、IAEAから、アジアにおける拠点として大阪大学が選定され、核医学専門家のための教育プログラムに関する連携協定をアジアの大学として医学分野で初めて締結する運びとなったものです。

調印式には野口眞三郎病院長、澤芳樹医学系研究科長、畑澤順核医学診療科長らが出席し、IAEA担当者との懇談を行いました。

5月22日、IAEA(国際原子力機関)と「核医学専門家のための教育プログラム」に関する連携協定を医学系研究

産科・婦人科

来、胎児診断治療センターなどの専門外来を設け、高度な知識・技術を備えた専門医が対応しています。

産科では、内科・外科・婦人科のさまざまな合併症を持つ妊婦さんや高

ハイリスク分娩と先進的がん治療



齢妊婦、不妊治療後妊娠の方の妊婦健診・分娩を行っています。大阪府の総合周産期母子医療センターにも指定されており、最重症妊婦の受け入れ施設として、救命救急センターとも密接に連携した母体救命に尽力しています。胎児疾患や新生児異常についても、胎児診断治療センターにおいて、小児科・小児外科・脳神経外科などと連携し、出生前からの一貫したチーム医療を進めています。麻酔科による無痛分娩も開始し、基礎疾患のない妊婦さんの正常分娩も受け入れています。

婦人科では、子宮頸がん・体がん、卵巣がんをはじめとする婦人科悪性疾患の手術を数多く行っています。初期の子宮頸がんに対する先進医療として、腹腔鏡による広範子宮全摘手術のほか、進行がんに対しては外科的治療と化学療法(放射線療法・抗がん剤を組み合わせた集学的治療で高い生存率を得ています。進行した子宮頸がんに対しては、放射線化学療法の強化や残存腫瘍の摘出を行

い、5年生存率が大きく改善しました。また、病期によっては安全性を十分に考慮したうえで、妊娠が可能となる温存治療も手がけています。不妊治療に関しては、生殖医療センターにおいて、閉経前後の中高年女性の

て、女性と男性を診療し、情報を共有したうえで、体外受精や外科治療などを行っています。また、思春期外来で女性としての順調な成熟をめざした治療を行っているほか、閉経前後の中高年女性の

一貫した方針のもと、診療を行っています。合併症のある妊婦さんや婦人科疾患の患者さんにも安心して医療を受けてもらえるよう今後も大学病院の総合力を活かしたい」と木村正科長は語ります。

輸血部

常に良質で安全な輸血を実施



輸血部は、「常に良質で安全な輸血」の実践を目指す教育、血液検査、血液製剤の管理、各診療科に対する支援、医学部生に対する教育、血小板異常の病態・遺伝子解析などの研究を行っています。

輸血に関する検査では、不適合輸血を防ぐための「血液型検査」、溶血性輸血副作用の原因になる抗体の有無を調べる「不規則抗体検査」、患者さんの血液と輸血用血液を混合し、適合性を調べる「交差適合試

験」、血小板輸血の効果を高めるための「血小板抗体検査」などを実施しています。また善意のドナーにより献血された血液を効率よく無駄なく使用できるよう、血液製剤の適正な使用量の徹底に努めています。感染症の心配がなく、輸血に伴うアレルギー反応が起きない「自己血輸血」についても、2010年より輸血部が一括して自己血の採血を行っており安全性がさらに高まっています。

本年4月には最新型の遠心型血液成分分離装置スペクトラ・オプティアを2台、新規に導入し、沢山の患者さんに対する輸血業務がよりスムーズに行えるようになりました。

各診療科のサポート的な部門ですから患者さんと直接向き合う機会は多くはありませんが、「血液製剤の安全性は非常に高まっています。安心して輸血を受けてください」と富山佳昭部長は話しています。

平成28年春の叙勲について
前医療技術部長の土井司氏が瑞宝双光章を受章し、5月12日、国立劇場において勲章伝達式および

皇居での拝謁が執り行われました。瑞宝章は公務などに長年にわたり従事して功績を積み重ね、成績を挙げた者を対象としており、土井前医療技術部長は保健衛生に対する功労が称えられました。

事務部長おすすめ中華セット



メニュー

- あんかけ麺
- エビチリ
- 酢の物
- スープ
- 杏仁豆腐



吉原正啓事務部長は、前任地が中華街で有名な神戸でした。大好きな中華料理を入院中の患者さんにも召し上がっていただきたいと考え、おすすめ中華セットをご提供することにしました。事務部長と試行錯誤を重ね、メニューは患者さんに人気の麺を主食に、エビチリや杏仁豆腐の中華セットにし、中華風のカードも添えました。

「病院で中華が食べられるとは思っていませんでした」といった感想や、あんかけ麺は特に好評で「普段は米飯が主食なので変化があつて良かったです」などの意見をいただきました。